

P.2からの続き

陸川 今日の活動はどうだったのか話し合っ、次はこうしようとか、みんなでよくしていく、楽しくしていく。言われたことをして終わりじゃなくて、ふりかえることで、いい活動につながれると思います。

ボランティアって何だろう。 その役割と可能性を探る

織田 最近、大学でボランティア活動が授業の単位になるので参加する学生も増えていますが、団体の人から、無責任な行動を取る学生に困っているという声も聞きます。

渡辺 単位のために参加することは、ボランティアに触れるきっかけとしてあっていいのではないかな。何が必要で、何に困っている人がいて、何が問題なのか、それに対してどうするか。だからこの活動があるということを考えて、行動して、ふりかえってまた考える。そういうことを、学校側の担当者が受け入れ団体と一緒にプログラムを準備すれば、学生にとってすごくいい機会になる。

陸川 相談の中で、「〇〇の試験を受ける。履歴書にボランティア活動経験があると書きたいので紹介してください」とか、「単位を落としそうになった時に、先生から『ボランティア活動をしてきたら、単位をやる』って言われた」ということもありました。きっかけはそれかもしれないけど、本当にそのボランティアをやってみたいかどうかを聞く。「てっとり早くやれるのがいいです」みたいなことを言われたりすると、ボランティア依頼者側の気持ちも伝えた上で「そういう方にはボランティア活動は紹介できません」と断ったこともあります。

織田 実際に学生の受け入れはどうですか。

渡辺 夢喰人の活動だったら、気軽に参加していいよと言って、外へ遊びに行ったり、勉強会に来てもらっていますね。続かないことも多いですが、経験してもらったら、その経験は残ると思うので、断る理由はないかな。チャイルドラインあいちの活動は、いいかげんな気持ちで来て

もらうわけにはいかないですね。

陸川 先生自身が、ボランティアが何かを理解していないことも多い。例えば、交通違反をした人に罰則的に掃除をさせたりすることを外国だとコミュニティサービスと呼んでボランティア活動と分けているが、日本は無償でやればボランティアと思っている人もいます。もちろんわかっている先生もいて、ボランティア活動の案内はするけど、活動を単位の必須にはしない。ボランティアは自主的にやるものなので、興味があれば活動すればいいし、興味がなければ活動しなくてもいいと伝えてくださっています。ボランティアが罰則的に使われるのは、言葉が広がってしまったことの弊害かなという気もします。ふりかえりがいいイベントのボランティアとか、単位をもらうためのボランティアをしていると、本人にとってもそれがボランティア活動のすべてになって、マイナスのイメージになってしまう。ボランティアの楽しさがわからないまま終わってしまうのは防ぎたいなあと思う。

渡辺 そういう意味では、学校の先生向けにボラみみで何か企画するのもいいかも。

織田 『ボランティア史』がまさにそれだと思っているので(笑)。大学の教材になるようなものにしたいですね。名古屋ではボランティア活動をやりながら常に学習会も開いて、ボランティアって何なのかを学んでいた人たちがいる。1995年以降、ボランティアがすごく広がりを持った。今、いろいろなとらえ方が出てきて、ボランティアを活用しようという考え方もある。ボランティアがどのように変化してきたかを事実としてとらえて、もう一度考え直すきっかけになるものをつくりたいと思っています。歴史をきちんと学ぶことで、ボランティアが社会の課題をどう解決できる可能性を持っているか示唆していきたい。ぜひ楽しみにしてほしいと思います。

(この記事は2016年11月に開催した座談会を要約したものです。)

今年も総会にあわせ、第二部として「企業のCSR活動」に焦点をあてたパネルディスカッションを開催します。皆さま、ぜひご参加ください!

「企業の社会貢献活動の現場から」

月刊『ボラみみ』では、2010年から地元企業のCSR活動を紹介してきました。今回は、これまでに登場していただいた企業様を始めた地元企業から、社会貢献の取り組みをご紹介いただくとともに、企業とNPO・ボランティア活動の連携などについても考えてみたいと思います。

- 日 時: 11月26日(日) 14:30~16:30
- 場 所: ウィンクあいち1302
(名古屋市中村区名駅4-4-38)
- 参加費: 無料
- ★参加ご希望の方はボラみみまでご連絡ください
TEL: 052-228-7824
E-mail: office@boramimi.com
担当: 佐原

GO!GO! ボランティア 第18回 靖子さんが行く!



靖子さんより

自分の趣味や興味から入っていけるような活動なら、ボランティア!って気構えることもなく、気楽に始められると思います。これからも自分のスタイルを守りつつ、長く長く関わり続けていきたいと思っています。

ある日の靖子さんの一日

- 9:15 事務所鍵開け
訪問準備(アポ取り・訪問先確認など)
- 10:00 アパート訪問
- 13:30 事務所で訪問記録作成
- 14:00 軽食&雑談
- 15:00 アパート訪問会議
- 17:30 帰宅/フリータイム

出会いの場からつながる!ささえる!

ささしまサポートセンターと私の出会いは、今からちょうど4年前に開催された「アパート訪問事業説明会&傾聴ボランティア養成講座」に参加したことがきっかけでした。ボランティアをするというよりは、「相手の話をただ聞くのではなく注意を払い深く理解する」という傾聴に興味があったからです。介護や福祉などの専門知識がなくてもでき、緊急性のある案件や重篤な状態に直面した時には専門的な支援につなげていけばよいという、誰にでもできる入口の広い活動だとスタッフの方から説明されて、ボランティア経験の全くない私でもできるかもしれないと思い、月1回のボランティア活動がスタートしました。

アパート訪問は、路上生活からアパート生活となった当事者のお宅へ二人一組で訪問し、お話を伺いながら、最近の様子や何か困っていることはないか、生活の様子を実際に目にして、気になることや変化はないかなどを確認することが主な活動です。私たちがアパート訪問をすることで、問題が解決したり、生活が劇的に変わったり

と、手に取るような変化があるわけではありません。それでも、訪問を繰り返すうちに、心を開いてくれる当事者の方はたくさんいらっしゃいます。時には、じれったく感じることもありますし、人によっては迷惑がられて、もどかしく思うこともあります。笑顔で日常のありふれた話をしてくださると、本当に地味で些細な活動ですが続けてきて良かったとうれしくなります。

細く長く続けていく活動のもう一つの支えは、ボランティア仲間とのつながりです。年齢も性別も職業も特技も様々ですが、アパート訪問というボランティア活動をご縁につなげた仲間です。心が折れてしまうような重たい話を聞いた訪問帰りも、二人で話している間に気が楽になってきます。しばらくお休みしている時も、会議の報告メールや連絡メールをもらうと参加しようという気持ちに戻してくれます。時々開催される飲み会の席などで、スタッフの方やバリバリ活動されているボランティアの方に会うことは、ここですしか聞けないだろうと思うような話が聞けて、とても刺激になっています。

ボランティアを始めて、自分を成長させてくれる場所は何歳からでも作れるのだと実感することができました。ボランティアの奥深さを知り、これからは細々とではありますが、無理せず末永く続けていきたいと思っています。ぜひ皆さんも気楽な気持ちで何か始めてみてください。きっと誰かのためになり、自分のためにもなる新しい出会いがあると思います。



月に1度のボランティア会議の様子